

関節鏡技術認定制度 FAQ（よくある質問）

<制度について>

Q1：この制度を取得するとどのようなメリットがありますか。

A1：関節鏡視下手術は広く普及した手術ですが、認定を受けた方は当会が認めた技術習熟度が高く、業績も備わった指導者・教育者にふさわしいドクターと認められたこととなります。

<提出物について>

Q1：手術実績（様式 1-3）の「合併症」とは手術中の合併症と既往症のいずれでしょうか。

A1：手術中の合併症について記載ください。

Q2：手術実績（様式 1-3）の出血量は、術中でしょうか、あるいは術後でしょうか。

A2：出血量は、術中の出血量を記載してください。おおよその量の記載で結構です。

Q3：業績一覧（様式 1-4）は、全て網羅する必要がありますか？最低何編とか、あるいは上限がありますでしょうか？

A3：英語論文、日本語論文は規定を満たす範囲内で申請ください。ただし、査読制度の確立された雑誌に掲載された、前十字靭帯または半月板に関する欧文主著論文が最低 1 編以上が必要です。なお、欧文主著論文は過去 5 年間の実績に限りません。

Q4：申請症例は、半月板縫合と ACL 再建の同時手術の場合、半月板と ACL でそれぞれ 1 症例ずつとして申請可能でしょうか。

A4：半月板と ACL の症例は、相互に重複しない症例を申請してください。

<動画について>

Q1：手術動画データは、半月板縫合術と ACL 再建術の 2 件でしょうか。あるいは半月板縫合術を伴った ACL 再建術 1 件ということでしょうか。

A1：ACL 再建術と半月板縫合術の同時手術を行った症例を提出下さい。該当の症例がない場合は、それぞれ別の症例動画でも結構です。ただし、半月板縫合術は原則としてロッキングする、または、している程度の症例とします。

Q2：動画が何件かのデータに分かれてしまいました。つなげた方が良いでしょうか。

A2： 関節外処置部分はカットして結構です。編集しない状態でつなげてください。
あるいは、各ファイルを順序どおりの番号を振って提出ください。

Q3： データ形式について、当院の機器で録画したファイル形式で良いでしょうか。

A3： 基本は MPEG としますが、Windows PC で動作するものであれば形式は不問です。
ただし、容量は 12GB 以内で提出ください。

Q4： 動画データが DVD に入りきらない容量となったがどうしたら良いでしょうか。

A4： 大容量の USB メモリで送付ください。頂いた USB メモリはご返却いたします。

<研修施設について>

Q1： 今後取得を目指したいですが、研修施設はありますか。

A1： 現時点で認定施設はございません。